



令和3年度 施政方針



嵐山町長
佐久間 孝光

施政方針とは、毎年町長が新年度の町の基本方針や主な施策の方向性を示すものです。嵐山町議会令和3年第1回定例会で佐久間町長が表明した施政方針の一部をご紹介します。

新たな町政のスタートに期待を寄せ多くの励ましをいただきました。令和3年度予算が初めての当初予算編成であります。私の手掛けなければならぬことの1つは財政状況の改善であります。細かなところを徹底的に見直し、財源を生み出し、先ずは子育て支援を充実してまいります。昨今は、いっここで大規模災害が起こるかわからない時代であります。そのような事態になっても即時対応ができるよう、一定額の基金を常時保有することが町づくりの安定を生み出すことと考えております。また、大規模事業の実施を見据えた財源確保も大変重要なことと考えております。コロナ禍により日常が一変してまいりましたが、ここで立ち止まる訳にはまいりません。ワクチン接種を始め、感染症対策をしっかり行い、必要な事業を着々と実施してまいります。

令和3年度の主要な事業につきましては、「少子高齢化の急速な進展」「地域経済の縮小」「激甚化する災害への対応」などの課題に対し、観光・文化・人材など町の資源を有効に活用し、活力あふれるまちを目指す「嵐山町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本方針に沿って、ご説明させていただきます。

活力と生きがいを創出する

「コロナに負けるな！働く人たち！」このコロナ禍に感染症と向き合いながら嵐山町内の事業所等で働く方々を昨年より「広報嵐山」にてご紹介しております。緊急事態宣言中、受注状況を考慮しながらの交代勤務。グループごとに休憩、休業を取ることで物理的な対策が難しい中でも「距離を保つ、向かい合って作業しない」など社員一人ひとりの自覚が大切であること取り組む事業所の皆様。休校中の献立に悩む保護者のために始めたお弁当とお惣菜のテイクアウト。店内飲食再開後も席の制限や間隔を開けるなどの感染防止対策を講じている店舗。お客様から「毎日来るからね！」の励ましの言葉に「心の距離はとも近づいた」との店主の言葉に大変感銘を受けました。引き続き町内の働く方々への支援と地域の活性化に資する施策に取り組んでまいります。

長年の懸案事項でありました駅西地区の整備は、地権者、関係者のご理解のもと、目に見える形で進展してまいりました。地域活力創出拠点「嵐なび」も大いに活用し、引き続き

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルスに始まり新型コロナウイルスに終わったという印象を強く持つております。令和2年度スタートの4月7日には緊急事態宣言が発出され、5月24日に緊急事態宣言が解除されたと言え、その後第2波、第3波と予想をはるかに超える勢いで感染が拡大し、本年1月7日には再度緊急事態宣言が発出され、現在も宣言下であることはご案内のとおりであります。

新型コロナウイルスとの戦いは本年も続くと思いますが、ワクチン接種のスタート、新型コロナウイルスへの的確な対処、治療法の確立等により着実に収束の方向に向かっていくことは確かであると思えます。町民各位のご協力をお願い申し上げます。その終息に全力を挙げ、「当たり前」のことが、当たり前前にできる、普通の日常を一日も早く取り戻したいと考えています。

また7月には東京オリンピック・パラリンピックの開催も控えております。感染拡大防止、ワクチン接種等まだまだ乗り越えなければならぬハードルもありますが、開催が確実になった場合には、この東京オリンピック・パラリンピックが名実と

き町の玄関口、町の顔として相応しい整備を進めて、さらに駅周辺の活性化を図ってまいります。



地域活力創出拠点「嵐なび」

観光面では、新しい組織に生まれ変わった観光協会のもと、民間のノウハウを最大限に活用させていただく中で、全町的な観光資源をフル活用し、町の特色を生かした農業を中心とした産業と組み合わせることににより、さらなる発展につなげてまいります。

産業面では、新規就農者を育成・指導する農業担い手塾への支援、独立する青年就農者への初期経営安定支援等、まちの農業担い手への支援を継続してまいります。また、花見

もに新型コロナウイルスとの戦いの収束宣言につながってくれますことを切に願っております。

ラベンダー園につきましては、天候不順や台風の影響により、多くの株が枯れてしまつ憂き目にあい、ラベンダーまつりを開催することができませんでした。また、新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの事業が縮小又は中止となり、日常生活へも様々な制約が求められています。しかし、「禍福はあざなえる縄のごとし」と言葉のように、物事は悪いことばかり続くのではなく、努力を続けていけば必ずや良い方向に進んでいくものであり、本年は嵐山町の将来に対し明るい未来が描ける礎を築いていきたいと考えております。



議会で答弁する佐久間町長

昨年9月9日に第6代嵐山町長に就任し、半年余りの月日が経過いたしました。この間、町民の皆様から

台工業団地拡張及び川島地区における産業系土地利用を推進し、企業の進出を促すとともに、町内における雇用の拡大を図ってまいります。

町では、男女共同参画社会の実現に向けて、町民・事業者・町が協働して取組を行ってまいりました。令和3年度では、これまでの取組をさらに推進するとともに、現状に見合った新たな計画とするために「第4次嵐山町男女共同参画プラン」を策定し、男女（ひとりひとり）が共にいきたいと暮らせるまち、共にさまざまな事業に取り組んで、自分らしいを十分発揮できるまちの実現を目指してまいります。



農業担い手育成丸莖塾